

令和 6 年度

事業報告書

(令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 3 1 日)

1. 概況

令和 2 年 4 月 1 日より新たな組織として「公益社団法人 北海道農産基金協会」が発足し 5 年が経過しました。

本年度につきましては、主たる各事業については事業計画に従い取り進めることができ、各種会議・出張用務も予定どおり行なっております。

○気象経過・生育状況等

5 月中旬までは平均気温は平年より高く、降水量及び日照時間は平年並みで、は種作業などは概ね順調であったが、下旬から 6 月上旬にかけて低温、寡照となり、総じて各品目の初期生育はやや停滞しました。

しかし、6 月中旬以降 7 月にかけて、気温は平年より高く、降水量及び日照時間は多く、各品目の生育は回復を見せ、平年より早く推移しました。

8 月に入り、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は少なかったものの、生育は全般に平年より早く進みました。

9 月に入り、気温は平年より高く、降水量は少なく、日照時間はかなり多く、各作物の生育は全般に平年より早く、農作業も平年並みから早く進みました。

品質については、猛暑の影響を受けた昨年産に比べ、品目により差はありますが、概ね並から良好な結果になりました。

○各品目の状況

(豆類関係)

豆類については、令和6年産の作付面積が大豆は46,800haで前年を1,500ha上回り、小豆は20,800haと前年から100ha減少しました。

菜豆類については、金時が3,750ha（前年比△180ha）、大手亡が1,300ha（前年比+30ha）となりました。

小豆は一部地域で葉落ちが不良となり収穫作業が停滞しました。収量・品質については、一部地域で小粒傾向のため、品質はやや不良となりますが、平年並みと見込まれます。

菜豆は一部地域で6月上旬から7月中旬の高温少雨により葉落ちが不良で、未熟莢が多く、当該地域では登熟不良で発芽粒、腐敗粒、屑粒の発生により品質は不良となりますが、収量は平年並みからやや少ない傾向で品質は平年並みと見込まれます。

主な事業については、赤系金時の安定的な供給を通じて価格の安定に資するため、「赤系金時安定供給緊急対策事業」を実施しました。

(馬鈴しょ関係)

馬鈴しょについては、作付面積は48,700haと前年産並みとなりました。用途別には生食・加工用約60%、でん粉用約30%、種子用約10%となる見込みです。

反収は平年を上回り、収穫量は1,870,000トン（前年比97%）でしたが、令和5年産のように猛暑の影響を大きく受けることがなく、ライマン価は平年並みとなり、馬鈴しょでん粉については原料処理量710,002トン、生産量は157,098トンを見込んでいます。

主な事業については、公募によるでん粉原料用馬鈴しょの品種改良や病害虫対策、栽培技術の開発に対する「研究助成事業」や、馬鈴しょ及び馬

鈴しょでん粉の安定的生産に寄与するため、講習会（現地開催・WEB）により各種情報を発信するなどの「普及啓発事業」を実施しました。

令和6年度においては、道産でん粉原料用馬鈴しょの生産目標面積を遵守し、道産でん粉原料馬鈴しょの需給改善を図ることを目的に「安定供給緊急対策事業」を実施しました。

また、北海道産でん粉原料用馬鈴しょの生産意欲の高揚と生産技術および品質・収量の向上、生産振興を図ることを目的とした、「でん粉原料用馬鈴しょ栽培共励会」にも参加しました。

（青果物関係）

野菜関係については、春作業は概ね順調に進みましたが、6月までは低温傾向、7月中旬までは高温・少雨が続いたことより、露地野菜を中心に生育遅延から出荷量は前年を下回りました。

その後の降雨を受け生育・出荷量は回復しましたが、8月下旬には平年を上回る降水量となる地区も多く、品質低下が顕著に現れた品目もあり出荷量は再び減少しました。玉ねぎは地上部の倒伏が早まったことから、やや平年を下回る収量となりました。

府県産においても高温が続き、また、台風等による局地的な降雨などから出荷量は減少し、特に夏秋期においては市況高で推移する年産となりました。

また、加工・業務用野菜の生産基盤の強化に向け、道内における「大規模契約栽培産地育成強化事業」の事務支援を行っております。

果実関係については、近年、国産ワイン需要の高まりがあり、北海道でも新たな担い手による醸造用ぶどうの栽培が本格化しており、「果樹経営支援対策事業」の助成額は増加しております。

2. 事業に関する事項

(1) 豆類関係

① 豆類価格安定対策事業

ア 令和5年産豆類価格安定対策事業

令和5年産対象豆類に係る価格差補てん事業については、対象豆類の平均販売価格がいずれも補てん基準価格を上回ったため、発動はありませんでした。

(参考) 令和5年産対象豆類の販売状況

ホクレン農業協同組合連合会

品名	等級	項目	調整販売	
			数量・金額	摘要
大正金時	2等	販売計画(俵)	89,671	
		販売実績(俵)	89,671	
		販売金額(千円)	3,497,169	
		販売平均単価(円)	39,000	
		平均販売価格(円)	37,183円 <精算: 令和6年9月30日> ★ 補てん基準価格 25,780円	
北海金時	2等	販売計画(俵)	1,419	
		販売実績(俵)	1,419	
		販売金額(千円)	58,149	
		販売平均単価(円)	39,000	
		平均販売価格(円)	37,095円 <精算: 令和6年9月30日> ★ 補てん基準価格 25,780円	
大手亡	2等	販売計画(俵)	35,807	
		販売実績(俵)	35,807	
		販売金額(千円)	1,360,666	
		販売平均単価(円)	38,000	
		平均販売価格(円)	36,086円 <精算: 令和6年9月30日> ★ 補てん基準価格 21,910円	

(注) 合計値と内訳は、ラウンドの関係で一致しない。

イ 令和6年産対象豆類の基準価格

令和6年産対象豆類の価格差補てん事業の基準価格については、令

和 6 年 1 0 月 1 6 日に開催された第 2 回業務評価委員会の意見を聴き、1 0 月 2 2 日に開催された第 2 回理事会の議決を経て、1 1 月 5 日に北海道知事の承認を受けたので、同日付けで次のとおり公告しました。

[基準価格]

項目 品目	規格 等級	単位 (kg)	場所	基 準 価 格 (円)		(参考) 基本価格 (円)
				補てん 基準価格	最 低 基準価格	
金 時	2 等	60	産地倉庫	27,560	21,430	30,620
大 手 亡	同上	同上	同 上	22,640	17,610	25,160

ウ 令和 6 年産対象豆類の対象数量

令和 6 年産対象豆類の対象数量については、令和 6 年 1 0 月 1 6 日に開催された第 2 回業務評価委員会の意見を聴き、1 0 月 2 2 日に開催された第 2 回理事会の議決を経て、1 1 月 5 日付けで、次のとおり決めました。

対 象 数 量	114,392 俵
内 訳	
大 正 金 時	80,084 俵
北 海 金 時	1,481 俵
大 手 亡	32,827 俵

エ 令和 6 年度赤系金時安定供給緊急対策事業

赤系金時の安定生産を通じて価格の安定を図るため、26 集荷団体を經由して、868 戸の生産者が約 3,025 ha に播種した優良種子の代金の一部として助成金 60,304 千円を交付しました。

② 小豆類生産安定対策事業

道産小豆類の需給状況の計画的な改善に向けて、関係者が一体と

なって生産目標面積の遵守に向けた取り組みを推進するため、令和 5 年度に小豆類生産安定運動推進事業を実施し、作付面積の増加など、一定の効果が得られたことから、6 年度は当該事業を実施しないことと致しました。

③ 豆類生産流通安定推進事業

ア この事業は、毎年恒常的に実施している業務を網羅した事業として設定しているもので、豆類需給安定会議を開催するための経費、豆類の生産目標に関する業務委託費及び豆類の生産・流通・消費動向の調査に関する業務委託費が含まれています。

イ 豆類需給安定会議については、一般社団法人全国豆類振興会及び北海道豆類振興会との共催により、昨年 9 月 5 日に十勝管内帯広市において、生産、流通、実需、試験研究、行政等の関係者約 70 人の参加を得て、豆類の主要生産地の生産者及び農協担当者をお招きし、本年産豆類の生育状況について情報提供いただき、関係機関から情勢報告を含めて意見交換を行いました。

ウ 豆類の生産目標面積に関する業務については、「豆類の生産目標面積設定に係る情報の収集及び当該面積の周知に関する業務」を北海道農業協同組合中央会に委託（委託費 500 千円）し、令和 7 年産雑豆に係る作付意向の把握、地域別生産目標面積の策定、当該面積の生産者への啓発に要する経費を委託費として支出しました。

エ 「豆類生産・流通・消費動向の調査に関する業務」については、ホクレン農業協同組合連合会に委託（委託費 2,000 千円）し、

道内における 6 年産の雑豆の生産（作付及び収穫）動向並びに全国主要消費地域における雑豆の消費動向に関する調査に要する費用を委託費として支出しました。

オ 生産目標面積の設定・周知

ウの委託調査を通じて得られた情報等を踏まえ、需要に即した計画的な雑豆の供給に資するため、令和 6 年 1 2 月 2 5 日付けで令和 7 年産の雑豆の生産目標面積を設定しました。

④ 豆類消費啓発助成等事業

ア 豆類消費啓発助成等事業及び⑤の豆類調査研究助成事業については、広く課題を募集し、公募事業等審査委員会において選定された課題について助成金を交付する方法により実施しています。

令和 6 年度の事業については、令和 5 年 1 2 月 1 日に当協会ホームページに公募要領を掲載し、令和 6 年 1 月 3 0 日に開催した審査委員会において実施課題が選定されました。

イ 豆類消費啓発助成等事業については、審査委員会において次の 5 課題が選定され、助成金（計 9,764 千円）を交付しました。

採 択 課 題 名	助成限度額 (千円)
食育＊雑豆教室&育てソダテ空まで届け！雑豆校内菜園	1,988
北海道小豆、いんげん豆うまいっしょフェア 2024	1,826
北海道の和菓子を食べようスタンプラリー2024	1,950
HBC ラジオ桜井宏のあんこ通信	2,200
FM ラジオとのタイアップによる豆活の推進	1,800

ウ 10月13日の「豆の日」の協賛行事については、令和5年12月1日から当協会ホームページで「豆の日」協賛事業の実施内容を募集し、審査委員会において株式会社フラクタルが選定されました。当該業者に対し、令和6年4月1日付けで交付決定（助成金1,650千円）し、10月上・中旬に「イオンお豆弁当フェア」として実施しました。

⑤ 豆類調査研究助成事業

本事業については、審査委員会において次の2課題が新たに選定され、地方独立行政法人北海道立総合研究機構農業研究本部十勝農業試験場に助成金（計4,500千円）を交付しました。

採 択 課 題 名	助成限度額 (千円)
小豆の開花期高温抵抗性評価法の検討	1,000
豆類主要病害虫に対する農薬散布用ドローンを用いた防除効果と散布特性の評価	3,500

また、前年度までに採択された次の4課題については、複数年度事業として選定された課題であり、地方独立行政法人北海道立総合研究

機構農業研究本部中央農業試験場及び十勝農業試験場に助成金（計 9,500 千円）を交付しました。

継 続 課 題 名	助成限度額 (千円)
作物モデルを用いた小豆及び菜豆の作期の推定	1,500
DNA マーカーを利用した土壌病害抵抗性に優れる小豆品種の開発促進	1,000
小豆の障害抵抗性に優れる品種開発促進	3,500
安定的多収を目指した菜豆新品種の開発強化	3,500

⑥ 豆類流通円滑化緊急対策事業

豆類の円滑な流通に重大な支障を生じる恐れのある事態が発生した場合に緊急的な対応を行うこととしていますが、本年度の発動はありませんでした。

(2)馬鈴しょ関係

① 研究助成事業

馬鈴しょ及び馬鈴しょでん粉の生産や供給の安定確保に資するため、品種改良、病害虫対策、栽培技術開発、及び需給に係る調査研究等の課題について公募を行い、採択された課題に対して助成事業を行い、13 課題に対し 23,897 千円の助成金を交付しました。

令和6年度 生産流通振興事業 一覧表

区分	事業名	部署	事業費(千円)
品種改良	ゲノム情報の活用による多収馬鈴しょ交配母本の選抜と維持	中央農試	2,000
	馬鈴しょ疫病圃場抵抗性系統の選抜強化	北見農試	2,000
	でん粉原料用馬鈴しょにおける高品質でん粉系統の選抜強化	〃	2,500
	センチュウ類およびYウイルス抵抗性馬鈴しょ品種の開発強化と特性検定試験	〃	3,000
	早期収穫適性が優れるでん粉原料用馬鈴しょ多収品種の開発促進	〃	3,000
	新規遺伝資源に由来するでん粉原料用馬鈴しょの育成およびデンプン含量に関わるマーカーの開発	帯広畜産大学	2,970
	でん粉特性の優れたジャガイモシロシストセンチュウ抵抗性でん粉原料用品種の開発	北農研	1,400
病害虫	日本未発生の馬鈴しょ寄生性線虫のでん粉原料用馬鈴しょ道内主要栽培品種に対する加害性の解明	農研機構 植物防疫部門	807
	アブラムシの飛来に影響を及ぼす気象要因の解明およびアブラムシからの簡便なウイルス検出手法の確立	北農研	900
	馬鈴しょのエンドファイトによるジャガイモ黒あし病発病抑制効果の評価(辞退)	〃	0
	馬鈴しょ疫病の効率的な防除を目的とした疫病菌の動態調査と防除技術開発に関する試験研究	北海道大学院	1,134
栽培技術	ジャガイモシロシストセンチュウ抵抗性馬鈴しょ品種「ユーロビバ」の農業特性解明	十勝農試	2,000
	ニオイセンサを用いた馬鈴しょ塊茎腐敗臭の測定技術の確立	北農研	920
	ジャガイモシロシストセンチュウの殺処理手法・条件の解明	北農研	1,265

	合計		23,897
--	----	--	--------

※令和6年5月27日第1回理事会後、1課題辞退しています。

② 普及啓発事業

道内馬鈴しょ及び馬鈴しょでん粉の安定生産及び生産性向上に寄与するため、馬鈴しょ及びでん粉講習会の開催等によって、馬鈴しょの栽培技術・品種開発・流通動向等に係る各種情報の普及啓発を図りました。

ア. 第31回馬鈴しょ及びでん粉講習会（現地開催・WEB開催）

（ア）令和6年度は、幕別町、網走市において講習会をホクレンと共同にて開催し、両会場合わせ約500名の出席がありました。

（イ）講演について

○馬鈴しょでん粉をめぐる情勢について

農水省地域作物課 伊藤 課長補佐

○馬鈴しょでん粉の販売状況について

全農麦類農産部 西野 次長

○生産者優良事例

・幕別会場

生産者優良事例紹介・近年の気象が澁原馬鈴しょ「コナヒメ」の収量・でん粉価に及ぼす影響を解析

・十勝農業改良普及センター 永山 専門普及指導員

・中札内村農業協同組合 井川 常務理事

・網走会場

斜網地区の馬鈴しょ栽培技術について（斜里町秋の川地区における事例紹介～「コナヒメ」安定確収技術確立に向けた取組～）

・網走農業改良普及センター 中坂 普及職員

・しれとこ斜里農業協同組合営農振興課 渡仲 課長補佐

○でん原馬鈴しょにおける高品質でん粉系統の選抜強化

・北見農試馬鈴しょ牧草グループ 和崎 研究職員

○「コナヒメ」の安定生産に向けて

・ホクレン農総研 畑作物水稻開発課 田中 課長

○メーカー講演 日頃の感謝を込めて

・マロニー㈱ 井上 代表取締役社長

（ウ）講演内容を撮影し協会ホームページ経由で視聴できるようにしています。（3/7～）

（エ）視聴集計結果について

3月末現在でアクセス総数 220 件、その主だった地域は日胆・石狩、オホーツク・根釧及び十勝で約 92%を占めていました。

視聴者の所属は「JAグループ・生産者・普及センター」が約 65%を占めていました。

③ 需給調整事業

令和 6 年産においては、でん粉原料用馬鈴しょ面積は減少しましたが、令和 5 年産のように猛暑の影響を大きく受けることがなく、ライマン価は平年並みとなりでん粉生産量は増加しましたが、次期への繰越数量は適正数量を下回ると見込まれ、販売においては各用途とも好調な需要を維持しているものの、供給を制限して販売を継続する必要があります。

以上の結果、令和 6 年産でん粉の「調整保管事業」は発動しませんでした。

また、令和 6 年度は道産でん粉原料用馬鈴しょの生産目標面積(14,700ha)を遵守し、道産でん粉原料馬鈴しょの需給改善を図ることを目的に、「馬鈴しょ安定供給緊急対策事業」を実施し、JA等 40 の集荷団体が事業を希望し、でん粉原料用馬鈴しょ専用品種種代他に 49,259 千円助成しましたが、目標面積に対し未達でありました。

北海道産でん粉原料用馬鈴しょの生産意欲の高揚と生産技術および品質・収量の向上、生産振興を図ることを目的とした、「でん粉原料用馬鈴しょ栽培共励会」に参加し、委員会等に要する経費 426 千円の助成を行いました。

(3) 青果物関係

① 野菜関係事業

ア 野菜価格安定対策事業(特定野菜等供給産地育成価格差補給事業)

(ア) 交付対象数量及び交付予約数量

交付対象数量については、特定野菜 4,558 t・指定野菜 188 t、合計では 4,746 t（前年比 114%）となり、前年を上回る数量となりました。

※前年比：夏はくさい（179%）、スイートコーン（100%）、ブロッコリー（81%）、かぼちゃ（118%）、ごぼう（106%）、やまのいも「長いも」（111%）

交付予約数量については、生産出荷団体からの申込数量に対して 78%（前年 96%）の出荷数量となりました。

	6年度 A	5年度 B	4年度 C	単位：t. % 対比	
				A/B	A/C
特定野菜	(5,465) 4,558	(5,725) 4,054	(6,240) 5,023	(95) 112	(88) 91
指定野菜	(190) 188	(190) 105	(190) 122	(100) 179	(100) 154
計	(5,655) 4,746	(5,915) 4,159	(6,430) 5,145	(96) 114	(88) 92

※（ ）内は交付予約数量

(イ) 価格差補給金の造成額

事業資金造成額については、交付予約数量の減少などから前年を下回る 1 億 65 百万円（前年比 94%）となりました。

	6年度 A	5年度 B	4年度 C	単位：千円. % 対比	
				A/B	A/C
特定野菜 （機構）	160,924 (70,806)	172,136 (74,543)	184,244 (79,751)	93 (95)	87 (89)
指定野菜 （機構）	4,099 (2,050)	4,099 (2,050)	4,099 (2,050)	100 (100)	100 (100)
計 （機構）	165,023 (72,856)	176,235 (76,593)	188,343 (81,801)	94 (95)	88 (89)

※（ ）内は機構からの助成額で資金総額の内数

(ウ) 価格差補給資金の交付状況

野菜関係については、7 月中旬までの高温・少雨の影響により、露地野菜を中心に出荷量は前年を下回りました。8 月下旬には多雨

の地区も多く、品目によっては、品質低下により出荷量は再び減少しました。

市場では、猛暑による作柄不良で全般的に平年を上回る価格で推移しています。

このような状況の中、ごぼうの10～12月で2ブロック（関東・四国）の市場価格が低落したことから2,092千円（前年比△9,120千円）の生産者補給金を交付しています。

（エ）価格差補給資金の資金保有額

交付予約数量は減少したものの、補給金交付に伴う再造成額が前年を上回ったことから、補給資金の期末保有額は前年を上回る1億66百万円（前年比+12百万円）となりました。

内訳としては、農畜産業振興機構が73百万円・農産基金協会（北海道、登録出荷団体）が93百万円となっています。

	単位：千円、%				
	6年度 A	5年度 B	4年度 C	対比	
				A/B	A/C
特定野菜 （機構）	162,012 (70,500)	160,924 (70,806)	178,599 (77,712)	101 (100)	91 (91)
指定野菜 （機構）	4,184 (2,092)	4,099 (2,050)	4,097 (2,048)	102 (102)	102 (102)
計 （機構）	166,196 (72,592)	165,023 (72,856)	182,696 (79,760)	101 (100)	91 (91)

※（ ）は機構からの助成額で資金総額の内数

イ 野菜価格安定対策事業（野菜生産出荷安定資金造成円滑化事業）

指定野菜価格安定対策事業資金の都道府県負担分について、北海道から補助金として受領し、農畜産業振興機構に納付する事業となります。

指定野菜事業の対象となる交付予約数量は、591,397 t（前年601,147 t）で、補助金納付額は10,937千円（前年11,275千円）、債務負担行為額は778百万円（前年776百万円）となっています。

ウ 青果物生産出荷安定対策事業

北海道で生産される野菜の需要と供給を適正に調整し、安定的な

出荷を促進するため、ホクレンを事業実施者として「需要啓発事業」、「需給調整事業」、「馬鈴しょ・玉ねぎの安定出荷事業」を実施するための交付金を交付する事業となります。

本年度の交付額は 11 億 20 百万円(前年比 94%)となっています。

事業区分	月	期首保有額	資金受入額	交付額	資金保有額
需要啓発等	4月～ 翌3月	135,886,549	115,433,675	125,130,917	126,189,307
需給調整等		447,631,245	46,265,673	5,459,362	516,789,512
振替			29,287,296	935,340	
安定出荷		785,155,893	1,070,360,946	989,244,890	837,919,993
振替			935,340	29,287,296	
計		1,368,673,687	1,262,282,930	1,150,057,805	1,480,898,812
合 計（振替除く）			1,232,060,294	1,119,835,169	1,480,898,812

② 果実関係

ア 果樹経営支援対策事業（整備事業）

中央果実協会（事業主体者）から交付決定承認を得ている当年度事業完了分（5 年度、6 年度）について、38ha の園地整備を行い、88 百万円（前年比 154%）の補助を行っています。

対象産地は、10 産地（七飯町、壮瞥町、ニセコ町、仁木町、余市町、岩見沢市、三笠市、浦臼町、南渡島、十勝広域）で、優良品目・品種への改植、新植及び土壌土層改良等の小規模園地整備を実施しています。

単位：千円、%

	6 年度 A	5 年度 B	4 年度 C	対 比	
				A/B	A/C
事業費	(80,082) 108,219	(59,795) 60,220	(93,820) 103,558	(134) 180	(85) 105
補助金	(77,086) 88,407	(57,731) 57,477	(85,705) 87,145	(134) 154	(90) 101

※（ ）内は事業計画

イ 果樹未収益期間支援事業

整備事業と同じく幼木苗木の植栽を実施した 28ha(前年比 137%)の園地について、未収益期間の経費助成として、60 百万円（前年比

147%) の補助を行っています。

近年、増加傾向である“醸造用ぶどう”について、助成額は前年比で 176% 増加しています。

単位：千円、%

	6 年度 A	5 年度 B	4 年度 C	対比	
				A/B	A/C
事業費	(56,665) 61,319	(42,669) 42,146	(61,930) 62,594	(133) 145	(91) 98
補助金	(54,796) 59,640	(41,211) 40,575	(60,210) 61,021	(133) 147	(91) 98

※ () 内は事業計画

ウ 果樹関係事業総額（整備事業＋未収益期間）

単位：千円、%

	6 年度 A	5 年度 B	4 年度 C	対比	
				A/B	A/C
事業費	(136,747) 169,538	(102,464) 102,366	(155,750) 166,152	(133) 166	(88) 102
補助金	(131,882) 148,047	(98,942) 98,052	(145,915) 148,166	(133) 151	(90) 100

※ () 内は事業計画

③ その他

ア 大規模契約栽培産地育成強化支援事業

令和元年度以降に採択された 10 件について、当該事業の関係書類（成果報告書、実施状況報告書、実施計画の軽微変更等）の提出を行っています。

また、令和 6 年度事業の公募については、道・JA グループ等に応募の周知を行った結果、2 団体から応募があり 2 団体（内 JA 1 団体）とも採択されています。

イ 全国果樹技術・経営コンクール

北海道果樹・技術コンクール審査委員会（事務局：協会）で審査を行った「七飯町 宮後英子様」を中央果実協会に推進した結果、「中央果実協会理事長賞」受賞しました。

〔参考〕

1. 大規模契約栽培産地育成強化支援事業の概要（北海道分）

事業区分	採 択 年 度	事 業 実 施 者	事業対象		補助金 (百万円) (@15万円/10a)	品 目
			面 積 (ha)	参 加 者 (人)		
加工・業務用野菜生産基盤強化事業	元	4	180	161	345	かぼちゃ、スイートコーン、さやいんげん、えだまめ
端境期等対策産地育成強化推進事業	3	2	100	39	149	だいこん、生食用かぼちゃ
大規模契約栽培産地育成強化推進事業	4	0	0	0	0	(採択なし)
	5	2	100	34	150	スイートコーン、かぼちゃ
	6	2	72	26	108	かぼちゃ
合計		10	452	260	752	

（注 1） H26 年度から H30 年度及び R2 年度は事業終了。

2. 全国果樹技術・経営コンクールの道内農業者の受賞状況

（平成 11 年～令和 6 年）

受賞内容	受賞回数	市町村
農林水産大臣賞	3	芦別市、浦臼町、壮瞥町
農林水産省生産局長賞	2	増毛町、壮瞥町
全国農業協同組合中央会会長賞	4	余市町（2）、深川市、増毛町
全農経営管理委員会会長賞	1	仁木町
全国果樹研究連合会会長賞	4	深川市、余市町、仁木町、厚真町
公益財団法人中央果実協会理事長賞	4	札幌市、長沼町、砂川市、七飯町
計	18	

3. 組織に関する事項

(1) 会員

区 分	前期末	加入	合併	令和7年3月末
正会員	108	0	0	108

(2) 預り基金

(単位:千円)

区 分	預り基金
北海道	1,345,000
その他自治体(9市)	46,000
農業協同組合(85JA)	3,000,095
農協連合会(4団体)	1,293,900
その他農業団体(9団体)	2,053,100
計	7,738,095

(3) 役員

区分	前期末	当期就任	当期退任	令和7年 3月末	定款に決める 役員の定数
理事	14	0	0	14	13名以上15名以内
監事	1	0	0	1	2名以内
合計	15	0	0	15	

役員名簿

役職名	氏 名	所属団体・役職名
理事長	樽 井 功	北海道農業協同組合中央会 代表理事会長
副理事長	橋 本 弘 幸	ホクレン農業協同組合連合会 代表理事副会長
専務理事	五 藤 一 彦	学識経験者
理 事	花 岡 弘 毅	北海道農政部生産振興局 農産振興課長
理 事	松 尾 元	公益財団法人日本豆類協会 常務理事

理 事	八 田 米 造	ようてい農業協同組合 代表理事組合長
理 事	高 井 一 英	とうや湖農業協同組合 代表理事組合長
理 事	山 本 博 行	そらち南農業協同組合 代表理事組合長
理 事	畑 山 義 裕	東旭川農業協同組合 代表理事組合長
理 事	大 坪 広 則	きたみらい農業協同組合 代表理事組合長
理 事	前 川 厚 司	幕別町農業協同組合 代表理事組合長
理 事	飯 島 浩	中標津町農業協同組合 代表理事組合長
理 事	梶 原 雅 仁	豆の国十勝協同組合 理事長
理 事	太 田 孝 夫	北のでんぷんを考える会 会長
監 事	今 村 隆 徳	道央農業協同組合 代表理事組合長

(4) 会計監査人

氏 名	所 属
板 倉 暢 宏	桶谷・折原・板倉公認会計士共同事務所

(5) 業務評価委員会

業務評価委員（豆類）名簿

氏 名	所 属・職 名
高 野 浩 文	公益財団法人日本豆類協会 事務局長
矢 花 修	北海道農政部生産振興局農産振興課課長補佐
安 岡 眞 二	地方独立行政法人北海道立総合研究機構 農業研究本部十勝農業試験場 研究部長
沖 崎 慎	北海道農業協同組合中央会 農政対策部米穀農産課長
長谷川 幸 男	ホクレン農業協同組合連合会 農産事業本部農産部長
前 田 英 典	女満別町農業協同組合 参事
市 村 誠	本別町農業協同組合 農産部長
西 谷 洋 人	芽室町農業協同組合 農産部長

業務評価委員（馬鈴しょ）名簿

氏 名	所 属・職 名
今 井 慎	北海道農政部生産振興局農産振興課 畑作グループ主幹
沖 崎 慎	北海道農業協同組合中央会 農政対策部米穀農産課長
長谷川 幸 男	ホクレン農業協同組合連合会 農産事業本部農産部長
植 田 裕	ホクレン農業協同組合連合会 種苗園芸部種苗課技師

平 崎 陽 一	浦幌町農業協同組合 営農販売部長
下 山 修 治	小清水町農業協同組合 販売部長

(6) 職員

区分	前期末	当期増加	当期減少	令和7年3月末
一般職員	9	0	1	8

4. 管理及び運営に関する事項

(1) 総会

① 令和6年度通常総会

ア 開催日 令和6年6月19日(水) 14時

イ 開催場所 ANAクラウンプラザホテル札幌 24階「白楊」

ウ 会員数及び出席者数

正会員数 108

総会出席者数 99

(本人出席25、委任状7、議決権行使書67)

エ 議決事項

第1号議案 令和5年度事業報告書並びに計算書類について

第2号議案 定款の変更について

第3号議案 会計監査人の選任について

第4号議案 令和6年度役員報酬について

(2) 理事会

① 第1回理事会 令和6年5月27日(月)

ア 議 案

第1号議案 令和5年度事業報告書並びに計算書類(案)について

- 第 2 号議案 定款の変更(案)について
- 第 3 号議案 役員の補欠選任(案)について
- 第 4 号議案 会計監査人の選任(案)について
- 第 5 号議案 令和 6 年度役員報酬(案)について
- 第 6 号議案 令和 6 年度通常総会の開催について
- 第 7 号議案 規程の一部改正について
- 第 8 号議案 令和 6 年度会計監査人の報酬について
- 第 9 号議案 準備金の取崩しについて

イ 報告事項

- 報告事項 1 号 令和 6 年度馬鈴しょ安定供給緊急対策事業の実施について
- 報告事項 2 号 理事長及び専務理事の職務の執行状況について

② 第 2 回理事会 令和 6 年 1 0 月 2 2 日 (火)

ア 議 案

- 第 1 号議案 役員体制の変更について
- 第 2 号議案 役員選任規程の変更について
- 第 3 号議案 令和 6 年産対象豆類の基準価格並びに価格差補てん対象数量について
- 第 4 号議案 令和 6 年産事業対象馬鈴しょでん粉調整販売計画について
- 第 5 号議案 令和 6 年度事業計画(馬鈴しょ事業)の変更について
- 第 6 号議案 業務方法書(馬鈴しょ事業)の改正について
- 第 7 号議案 役員賠償責任保険契約の更新について

イ 報告事項

- 報告事項 1 号 令和 6 年度上半期事業報告並びに収支報告について
- 同 監査報告について

報告事項 2 号 理事長及び専務理事の職務の執行状況について

報告事項 3 号 資産の運用状況と今後の取進めについて

③ 第 3 回理事会 令和 7 年 3 月 1 8 日（火）

ア 議 案

第 1 号議案 令和 7 年度事業計画及び収支予算について

第 2 号議案 赤系金時安定供給緊急対策事業の実施について

第 3 号議案 定款の変更について

第 4 号議案 規程の一部改正について

第 5 号議案 野菜関係事業に係る業務方法書の改正について

イ 報告事項

報告事項 1 号 資産の運用状況と今後の取進めについて

報告事項 2 号 令和 7 年度事業に係る公募結果について

（ 3 ） 監事監査

第 1 回監事監査 令和 6 年 5 月 2 7 日（月）

議 題 令和 5 年度公益社団法人北海道農産基金協会の決算等
について

第 2 回監事監査 令和 6 年 1 0 月 2 2 日（火）

議 題 令和 6 年度上半期事業報告並びに収支報告について

（ 4 ） 会計監査

第 1 回会計監査人監査 令和 6 年 5 月 1 7 日（金）

議 題 前事業年度会計監査について

第 2 回会計監査人監査 令和 6 年 1 0 月 1 5 日（火）

議 題 上半期財務諸表検証について

(5) 業務評価委員会

第1回業務評価委員会（豆類）

令和6年5月21日（火）

報告事項 1) 令和5年度赤系金時安定供給緊急対策事業実施報告について

2) 令和5年度小豆類生産安定運動推進事業実施報告について

審議事項 1) 令和5年度事業報告(案)について

第1回業務評価委員会（馬鈴しょ）

令和6年5月21日（火）

報告事項 1) 令和5年度 生産流通振興事業結果概要について

2) 令和6年度馬鈴しょ安定供給緊急対策事業について

審議事項 1) 令和5年度 事業報告書（案）について

第2回業務評価委員会（豆類）

令和6年10月16日（水）

報告事項 1) 令和6年度事業報告（上半期）について

2) 令和6年産道産豆類の需給見込について

3) 令和6年度赤系金時安定供給緊急対策事業の取組状況等について

審議事項 1) 令和6年産対象豆類の基準価格（案）について

2) 令和6年産対象豆類の価格差補てん対象数量(案)について

第2回業務評価委員会（馬鈴しょ）

令和6年10月16日（水）

報告事項 1) 令和6年度 事業報告書（上期）

審議事項 1) 令和6年産事業対象馬鈴しょでん粉調整販売計

画（案）について

2）でん粉原料用馬鈴しょ栽培共励会について

そ の 他 1）第31回馬鈴しょ及びでん粉講習会の開催について

第3回業務評価委員会（豆類）

令和7年3月12日（水）

報告事項 1）令和6年産道産豆類の需給見込について

2）令和7年度事業に係る公募結果について

審議事項 1）令和7年度事業計画（案）について

2）赤系金時安定供給緊急対策事業の実施について

第3回業務評価委員会（馬鈴しょ）

令和7年3月10日（月）

報告事項 1）令和7年度事業に係る公募結果について

2）第31回馬鈴しょ及びでん粉講習会について

審議事項 1）令和7年度事業計画（案）について

その他 1）馬鈴しょでん粉をめぐる一般情勢等について